

100. MRSA菌血症についての検討

研究の概要

MRSAは、医療関連感染を起こす代表的な菌で、院内で分離される耐性菌のなかで頻度が高く、敗血症の原因としても重要です。MRSA菌血症の死亡率は、19-57%と予後不良で、治療成績の向上が望まれます。MRSA菌血症の治療において、最新のガイドラインでは、非複雑性MRSA菌血症の評価ならびに病態に応じた抗MRSA薬の使用を推奨しています。また、予後予測を検討した報告もあります。以上から、MRSA菌血症の臨床像、抗MRSA薬の選択状況、予後の評価は、今後の治療成績向上を検討する上で有用です。

研究の目的と方法

今回の研究は、当院におけるMRSA菌血症の診療実態、予後を明らかにすることを目的とします。本研究では、2011年3月1日～2019年5月31日に国立病院機構熊本医療センターを受診された患者さんのうち、血液培養でMRSAが検出された方を対象としています。研究対象症例数は、約180名です。日常診療で得られたデータ(年齢、性別、身体所見、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転帰)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより、患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者(患者さん)の個人情報(氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

調査対象期間：2011年3月1日～2019年5月31日

研究実施期間：倫理委員会承認後～2021年8月31日

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏

TEL: 096-353-6501